

11月14日に建設消防委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

清音神在本線改良工事について

～内容～

清音神在本線改良工事は、平成17年度から事業に着手している。現在、中原工区が完成し、平成22年3月から供用開始している。

平成22年度から橋梁部の施工をしており、平成23年10月5日に富原側の橋脚4基、橋台4基が完成している。同年10月21日から河川内の橋脚5基のうち3基を現在施工中である。

富原工区は地元説明会を5回実施し、現在、一筆測量を行っている。

合併特例債の期限である平成26年度の完成を目途に事業を行っており、今後の工事の進捗や事業計画について調査した。

～質疑～

問：高架上部の工事を平成25年度に予定していたのを平成24年度末に施工したい理由は何か。

答：東日本大震災のために、東北地方に来年の国の事業費が使われることが予想され、まとまった事業費が必要である橋梁部の工事を早期に完成させたいため。

問：総工事費は61億円を超えないと聞いているがどうか。

答：総工事費の約1割減で全体が完了できるものと推定している。

問：富原工区の関係地権者に地元説明会等を通じて同意は得られているのか。また、測量についてはどうなっているのか。

答：5回の説明会を開催した。説明会に出席できなかった地権者には戸別訪問して、1筆測量に入ることを了承してもらい、測量に入っている。

問：清音神在本線を市で維持管理していくのは財政的に厳しい。国、県に維持管理をしてもらうよう要望をしてはどうか。

答：国、県に維持管理をしてもらいたい部分であるので、実現に向けて要望していきたいと考えている。

問：総社市の新架橋から高梁川右岸を通り真備、船穂を通って倉敷につながる道路の整備を県や倉敷市と協力して進めてもらいたい。

答：倉敷船穂真備総社線（仮称）の期成会がある。倉敷市と総社市で協力しながら取り組んでいくように考えている。

総社駅南地区土地区画整理事業について

～内容～

健全な市街化の造成を図るとともに、既成市街地周辺の都市基盤を整備し、公共の福祉の増進に資することを目的に事業推進を行っており、現状と今後の計画について調査した。

～質疑～

問：保留地は、現在どのくらい残っているのか。

答：保留地は総面積が3万880㎡で、残りの保留地については、平成23年度末の見込みで約1万4千㎡である。

問：区画整理地内の入札で売り払い予定である保留地の面積、金額はいくらか。

答：面積は約3,640㎡、総額として約1億8千万円を予定している。

各部署における現在進行中等の事務事業について

本年10月に委員会構成が変わったため、所管事務全般の現状と課題を認識するため、調査を行った。